

2026 年 9 月 25 日

各 位

株式会社 西 京 銀 行
取締役頭取 松 岡 健

株式会社翔建さまによる「SDGs 宣言」策定について

西京銀行は、持続可能な社会の実現に向け、地元企業さまの SDGs への取組みをサポートする「さいきょう SDGs コンサルティングサービス」の提供を行っています。

このたび、当サービスを通じて、株式会社翔建（本社：山口県宇部市 代表取締役 杉山 翔平）さまが SDGs 宣言を策定されましたので、お知らせします。

企業概要

会 社 名	株式会社翔建
所 在 地	山口県宇部市東梶返 1 丁目 4-14
代 表 者	杉山 翔平
SDGs への取組み	建築・改修・外構の三事業を通じ、地域社会の持続的な発展と豊かな暮らしの実現に貢献します。専門的な知見と高度な施工技術をもって、生活環境の変化に順応する最適解をご提案します。お客様と対話を重ねるなかで、お住まいの「今の課題」に向き合い、「これからの理想」に寄り添います。 また、地域社会との共存共栄、活気あふれる豊かなまちづくりに貢献します。次世代を担う青少年の健全な育成に向けて、地元スポーツクラブへの継続的な支援を通じ、地域のスポーツ振興に取り組んでいます。また、定期的な清掃活動や学校行事への協賛を通じて、地域と共に発展する企業を目指します。
U R L	https://www.shouken210.com/

※ 株式会社翔建さまの SDGs 宣言については、別紙をご参照ください。

西京銀行は、引続き地元の課題解決ニーズに幅広く、きめ細かくお応えし、「地域の皆さまのお役に立つ銀行」を目指してまいります。

◆本件に関するお問い合わせ

西京銀行 ビジネスコンサルティング部（担当：木林）
TEL：070-7575-2294



株式会社翔建 SDGs宣言

当社は、国連において採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、事業活動を通じて、地域の課題解決と持続的な成長に貢献してまいります。

2026年9月25日
株式会社翔建
代表取締役 杉山 翔平

当社のSDGsへの貢献

技術と対話で寄り添う住まいづくり

建築・改修・外構の三事業を通じ、地域社会の持続的な発展と豊かな暮らしの実現に貢献します。専門的な知見と高度な施工技術をもって、生活環境の変化に順応する最適解をご提案します。お客様と対話を重ねるなかで、お住まいの「今の課題」に向き合い、「これからの理想」に寄り添います。

【主な取り組み】

- ライフステージに応じた最適な住宅空間の提案
- 1級建築施工管理士による高品質な施工
- 災害に強い住宅基盤の構築、既存建物の長寿命化



環境と調和する事業活動

事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組み、自然環境の保全と循環型社会の実現を目指します。CADシステムを活用して設計から施工における資材使用料を適正に管理し、適正な資材選定と資材ロスの削減に努めています。また、日常業務における環境配慮を徹底し、環境と調和する持続可能な事業活動を推進しています。

【主な取り組み】

- 営業車両のエコドライブ推進、低燃費車両の導入
- 建設廃棄物の徹底した分別とリサイクルの推進
- LED照明等省エネ設備の導入によるエネルギー削減



従業員の安全を守る職場づくり

従業員や協力業者と連携し、安全に働ける職場づくりを推進します。安全計画や定期的な研修の実施・共有を通じて、関係者全員が安心して業務に取り組める環境を整備しています。また、柔軟な勤務体制の導入や労働時間の適正化、資格取得支援制度の充実により、働きやすく成長できる環境づくりに取り組んでいます。

【主な取り組み】

- 資格取得費用全額補助による資格取得の支援
- 計画的な有給取得や、介護・育児休暇の推奨
- 安全計画の作成と定期的な研修の実施



地域に根ざした社会貢献活動

地域社会との共存共栄、活気あふれる豊かなまちづくりに貢献します。次世代を担う青少年の健全な育成に向けて、地元スポーツクラブへの継続的な支援を通じて、地域のスポーツ振興に取り組んでいます。また、定期的な清掃活動や学校行事への協賛を通じて、地域と共に発展する企業を目指します。

【主な取り組み】

- 少年野球西岐波クラブ、東岐波少年野球クラブ 常盤サッカースポーツへの少年団活動支援
- 東梶返地区の清掃活動
- 山口大学の学祭（常盤祭）への協賛



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標（SDGs）とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真です。貧困や不平等、気候変動、環境劣化、繁栄、平和と公正など、私たちが直面するグローバルな諸課題の解決を目指します。SDGsの目標は相互に関連しています。誰一人置き去りにしないために、2030年までに各目標・ターゲットを達成することが重要です。